



第70号  
 令和4年8月  
 発行 NPO法人小野川  
 と佐原の町並みを  
 考える会  
 佐原町並み保存会  
 お問い合わせ  
 佐原町並み交流館  
 電話 0478(52)1000

**三菱銀行佐原支店旧本館保存修理工事が竣工**  
**商都佐原の象徴・川崎銀行佐原支店の威容が蘇る**

東日本大震災による損傷の修復と復原工事が完了し、令和四年四月九日(土)午前十時半より竣工式が行われました。



この瞬間を皆が待っていました

商都・佐原を象徴する建造物である旧川崎銀行佐原支店が創建当時のままに蘇りました。事業費は約七億四千万円。

**入念に復原された歴史遺産**

全てが歴史的に細部にこだわりの復原されたもので大正時代の匂を今に漂わせています。

床下土中より発掘されたタイル破片さえも再生して利用、防火シャッター巻き上げハンドルも秘蔵されてきたものを利用、ドーム屋根の火災類焼による炭化した痕跡も歴史遺産として留めました。

事業期間は、平成二六年(2014)九月一日〜令和四(2022)年三月二五日の間、延べ七年七ヶ月に及びました。工事は、大正三年と同じ清水満之介商店から続く清水建設(株)千葉支店で、奇しき縁を感じます。

耐震補強工事は、煉瓦壁に天井から地下まで垂直に直径十七ミリの鋼の棒を通し、天井の四方を鉄骨で補強しました。撤去されていた暖炉や螺旋階段も息を吹き返しました。有形文化財として遜色のない復原でした。

**賞賛と様々の思い出**

「考える会」の会員も三菱館の復原を心より待ち望んでいました。竣工式には多くの会員が参加して祝福しました。



**銀行としての使命感**

佐藤健太良理事長は「来館者には復原された三菱館をじっくり見ていただき、茅葺・木造の家が立ち並ぶ町の中心に、なぜこのような堅牢な西洋建築が建てられたのか考えてください。佐原は明治二五年十二月の大火だけでなく何度も火災を経験しています。屋根は銅板葺き、避雷針を立て、壁は煉瓦積み、窓には防火シャッターを装備することで、町民の大切な財産を安全に守り、安心してお金を預けてもらえるという銀行の強い使命感が伝わってきます。」

**町並み保存運動の原点**

佐原の歴史学習を通して町並み案内班を立ち上げた吉田昌司さんは「この建物が東京駅の開業と同じ大正三年十二月に完成し、辰野金吾の系統を継ぐ建物であることが私たちの自慢です。佐原に江戸、明治、大正、昭和の歴史遺産が残っているのです。三菱館は、佐原の町並み保存活動の本拠で思い出多い大切な場所です。立派に復原された建物を見て殊更に感慨深いです。」

**大変お世話になった銀行**

「正上」九代目の加瀬順一郎さんは「子供の頃に父に手を引かれて銀行に入ると、立派な八

の字髭の店長さんが机の脇にサーベルを立て掛けてどっかりと座っていても怖い所でした。父は佐倉連隊に派遣され、部隊が北海道に派遣されましたが、父は急病のために次の部隊で満州派遣となり、敗戦後にソ連に抑留されて亡くなりましたので、家業は祖父と母が引き継いでいました。私は佐原高校卒業後、千葉市吾妻町にあった千葉県工業試験場の醸造部・調味課で調味の研究を五年間やりました。家業を継いだのは昭和三年。二五才の頃、三菱銀行は未熟な私に対して丁寧な経営指導をしてくれました。

**思い出が一杯詰まって**

「考える会」が発足し、平成六年九月の第一号から四十号近くまで「佐原町並みかわら版」を発行し案内班の当番表を作り続けた越川悦子さんは「耐震工事後旧川崎銀行が復原されてうれしいかぎりです。螺旋階段や大理石の暖炉等、堂々としていて見事です。ただ、ドーム屋根がしばらくは茶褐色のままです。緑青の自然に輝く青色に変化するのを楽しみにしています。」



# 三年ぶりに雛舟、建物公開、夏の大祭 佐原の町並みに人波がもどる

新型コロナウイルスは7月に入ると第七波が襲来しました。下旬には世界の感染者累計は6億人に迫り、死者も6百万人超。日本の感染累計者数は1千万人超、死者は3万人超に。千葉県累計感染者数は57万人超、死者数は1800人超。香取市も一日の感染者が200人超の日もあり、8月初旬の累計感染者数は5千名を越えました。2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻で世界は大きく揺らいでいますが、社会は何とか前進しようとしています。



コロナ以前に戻った人波

コロナウイルス感染症が猛威を振るっていたこの二年の間、人流が集中する集会は自粛されてきましたが、ワクチン接種と市民に感染予防の心構えが徹底してきた結果、人流をスムーズにすることを優先する動きが始まり、佐原の重伝建地区で行われてきた恒例行事が三年ぶりに実施されました。

左は、第十七回「さわら雛舟春祭り」(3月5日)の様子。



伊能家旧宅の建物公開

土曜日は雛舟春祭と同日開催となりましたが、「考える会」の恒例行事である「佐原の町並み建物特別公開」が三月五日(土)と六日(日)二日間行われました。公開された建物は、植田屋荒物店、中村屋、伊能忠敬旧宅、与倉屋大土蔵、亀村本店、清宮利右衛門家、福新呉服店、正上醤油店の八棟で、見学者にはガイドの詳しい説明が行われていました。



船を安定させて草を抜く

護岸にへばり付いて  
小野川の草取り寸景  
六月二日(木)



水に浸かって頑張る

## ひとこと

香取市には佐原の町並みや豊富な農産物といった魅力をもとのように市外の人に発信していくかを考え、様々な活動を行ってきました。

地域を盛り上げるべく「香取市地域おこし協力隊」として雇用されてから早一年。

人生百年時代と言われ、若者が減少し高齢者が増える時代において、そのような二者が連携し、新たな取り組みを興すことで地域を変えて行く。温故知新に基づいた地域活性化を私は目指していきたいと考えています。

岡田 天太(地域おこし協力隊員)

## 全国町並みゼミ新潟市大会

一九七八年に始まった第四回全国ゼミが六月十日(金)から十三日(月)まで新潟市で行われました。十二日(日)の全体会は、新潟市民プラザでした。プレイベントからオプショナルツアーまで四日間の大会を無事に終了しました。来年は小樽市で開催予定です。

## 香取市が過疎自治体に

香取市は令和四年四月に法律に基づく過疎自治体として公示されました。人口減少、子供の数の減少が特に目立ちます。

若い人たちの働き場所をいかに創造・確保していくか、また伝統ある教育環境、高速道路の利便性、歴史的観光資源の豊かさをいかに生かすかが課題です。

## 「考える会」の主な事業

三月 二日	無電柱化説明会
五日~六日	建物公開
六日	第一七九回・骨董市
十六日	香取市佐原地区景観審議会
二二日	成田空港地域共生・共栄会議
二九日	第十二回案内班会議
三十日	成田空港地域共生・共栄会議
四月 三日	第一八〇回骨董市
六~八日	東京情報大学フレッシュユマンキャンブ
十九日	成田空港地域共生・共栄会議
二三日	竹灯り道の駅いたこ
二六日	第一回・案内班会議
三十日	理事會
五月 一日	骨董市中止
十日	電線地中化會議
十六日	風致維持協議會
十七日	日本遺産監査
十八日	地域おこし協力隊・岡田氏採用
二十日	つくば市議員視察・震災について
二三日	香取市文化財保存活用地域計画協議會
二四日	第十八期・定期總會
二四日	第二回・案内班會議
二五日	市町村アカデミー
二六日	社会教育後援會
二七日	成田空港地域共生・共栄會議
六月 二日	小野川清掃
五日	第一八一回・骨董市



### 香取道と曲目 (まがめ)

今回は、八坂神社周辺の道路などの状況を江戸時代の古絵図を参考にして見て行きましょう。

現在の八坂神社は、江戸時代までは神仏習合していて、牛頭天王(ごずてんのう)といました。その周辺は中世香取文書によると、座や市場が立ち、二日市や八日市などの市場をもつ集落がありました。現在まで伝わる八日市場という地名はその名残です。牛頭天王の祇園祭礼は別当寺院であった清浄院(しょうじょういん)が担っていましたが、明治維新の廃仏毀釈の中で廃寺となり、現在はその祠がわずかに古絵図の場所に残されています。現在の八坂神社は、隣の吉祥院の敷地まで広げられ、南面にも拡張して八日市場口の鳥居が付けられるようになりました。



(右)香取神社道標 (左)古地図模写



香取へ向かう道は「香取道」といわれますが、古絵図の「八日市場」から「曲目」を左折せず東へ直進して佐原高校へ通ずる道路が当時はありませんでした。現在の八日市場口の鳥居前にある岡澤商店の角を南下し、古絵図の観徳寺と現在の石橋肥料店の角を左折すると、角に「香取神社道」と記された道標が立っています。これが当時の香取神社へ向かう道筋であったことがわかります。ちなみに、観徳寺は廃寺となり、現在は墓地と小祠が残っています。

前出の「曲目」は、江戸時代の村組であった本宿組と浜宿組との境界で、街路の端でもあったようで、ここに高札場が立っていましたが、のちに大橋(現在の忠敬橋)の際に移動していきます。

(酒井 右二)

令和四年六月四日(土)の佐原着九時三十分の特別列車で首都圏から約七十名のお客様が佐原へやって来ました。JR東日本千葉の旅行企画の一つで、千葉県北総地区の観光地を列車で一周して、様々な体験をするというものでした。佐原では、町並みの中心地で歩測体験をする取り組みが組まれましたので、「考える会」や「おかみさん会」が協力しておもてなしをしました。お客さまは三班に分かれて、伊能忠敬記念館の後方、茂左衛門前、伊能家旧宅前の三ヶ所で歩測体験を行いました。

## 「北総ぐるり旅」のお客様をおもてなし

### JR特別列車が走る



佐原駅頭の歓迎の様子



忠敬記念館前で佐原の歴史を



歩測体験で忠敬の苦勞を偲ぶ

「考える会」としては、巻き尺、筆記用具、計算機、足型、梵天三本、机と椅子や羅針盤三基を準備しました。家族連れの方々が目立ち、子供たちも喜んで歩測に参加していました。お客様は午前十一時

三十分には佐原駅へ戻り、次の目的地である銚子駅へ向かいました。列車内で表彰式があり、絵ハガキが配られ、歩測距離を正しく言い当てた参加者には主催者側の用意したグッズが賞品として贈られたそうです。

## 町並み交流館の展示

- 九日 開かれた学校・佐原高校
- 二十日 理事会
- 二三日 第三回・案内班会議
- 七月 三日 第一八二回・骨董市
- 七日 忠敬橋欄干修景に伴う石壁風現地視察
- 十二日 文化財保護活用協議会
- 十四日 烏山高校町並み案内
- 二六日 第四回・案内班会議
- 三月 五日 佐原工芸の達人になる(講座)商工観光課
- 二二日~二四日 清水建設現場事務所撤去
- 四月 二日~十日 大地と書展
- 六日 ABC放送撮影・郷ひろみ
- 十四日~五月十五日 五月人形飾り・おかみさん会
- 二五日 盆栽展
- 六月 一日~三十日 映画「大河への道」公開記念展
- 七月 一日 新型コロナのための入館者カード記入終了、研修室利用者制限解除
- 一日~一五日 篠塚喜一写真展
- 佐原の大祭 入館者数
- 十五日 一〇一六名
- 十六日 二八五〇名
- 十七日 五二六七名



# 町並みに三年ぶりに歓声が響く 佐原の大祭夏祭りに多くの人が出

コロナ禍によって中止となっていた佐原の大祭夏祭りが令和四年七月十五日(金)〜十七日(日)の三日間行われ、三年ぶりに佐原の



小野川沿道の人波(日曜日)

町並みに山車が勢揃いしました。密集を避けるために各町乱曳き(町内ごとにルートを決めて曳き廻しをする)となり、特別な演出の



香取街道の人波(日曜日)

ない抑えた感じの巡行でした。

初日は時々雨がぱらついて山車はビニールに覆われたままで、人出は少な目でしたが、二日目は時々雨が落ちる程度で観光客も結構増えてきました。三日目の日曜日はすっかり暑い夏に戻って、香取街道と小野川沿いの人出は密集気味となつてしまい、密集を避けるようにと主催者が呼びかける声スピーカーから流れていました。



スマートフォンで山車の位置を

## コロナ禍のガイド

この二年間、伊能忠敬記念館と山車会館の館内ガイドが停止となり、小学生は三十分程度自由に見るだけの「おまかせ」見学になっています。

事前の学習指導がどのようにされているのかや小学生の理解の様子が変わりません。ガイドの平澤さんは、旧宅の説明の際に「伊能忠敬の一生」と「成し遂げたこと」を簡潔に分かりやすく付け加えるように心がけていると言います。



忠敬橋もガイドする重要な場所



伊能家旧宅は絶好のガイドサイト

## 伊能測量最大の危機?!

### 「糸魚川事件」の背景を探る(下)

#### 勘定奉行・中川忠英とは

この時の勘定奉行は中川飛騨守忠英(ただてる)といい、伊能測量隊のバックアップをしていた松平定信系の人材である。大名ですら一目置く「目付」という要職に抜擢され、長崎奉行、勘定奉行、大目付、御留守居と旗本の出世の頂点まで上り詰めており、能力のある人物だったらしい。

將軍徳川家斉が伊能図を見たとき、中川忠英は勘定奉行として同席している。また、のちに伊能小図の写本も所蔵していたほど伊能測量に充分関心を持ち、好意的、協力的でもあったようだ。

「糸魚川事件」で、「地元から幕府への報告を内々の処理に留めたのは、勘定奉行・中川の配慮であったことが高橋至時の書状からうかがえるという」(渡辺一郎1997・鈴木純子論文)もし中川飛騨守忠英に伊能批判の気持ちがあれば、糸魚川事件はどう展開したかわからない。

勘定奉行・中川飛騨守忠英はその訴状を天文方・高橋至時に廻した。「善処せよ」ということだったのだろう。

忠敬は、顛末を書いた「弁明書」を師の高橋至時を通じて幕府

に提出した(測量の途中と江戸に帰着後の二通)。そして最終的にはお咎めもなく終結した。

#### 高橋至時からの内書

この「糸魚川事件」では、上司の「高橋至時からの内書」が注目されてきた。※内書(ないしょ)とは内密の手紙のこと。

「天下の曆学者が地図完成を待ち望んでおり、あなたの英名が後世に残る仕事である。あなたの一身が曆学の盛衰に係るものであり、これだけの大事業が小事のために中絶となつてはまことに残念である」――大事な日本図完成のためには、小事にかかずらわつて大事をすてることにならないようにと諭している。(星埜由尚)

こうして忠敬らは最大の危機を脱したのである。伊能測量は多くの人々に支えられて成功したのだといえる。(了) (平澤節夫)

#### 参考文献

- 増村宏(大谷亮吉)「伊能忠敬」の日本測量について
- 玉造功(伊能忠敬記念館・第100回収蔵品展・展示品一覧の解説)
- InoPedia
- フリー百科事典「ウィキペディア」他